

## みやざき九条の会ニュース No. 23

(封書版) 2011年3月28日発行

〒880-0803 宮崎市旭 1-3-20 くすの樹ビル  
宮崎中央法律事務所内  
TEL0985(24)8820 FAX0985(22)2937  
E-mail miyazaki9jou@yahoo.co.jp  
<http://welove9.org/>

### \* 東北関東大震災 被災者のみなさんにお見舞いもうしあげます

3月11日 東北地方を中心にM9.0という巨大地震が発生し20mを越える大津波が太平洋沿岸を襲いました。死者・行方不明者は1万人を越え約50万人の人達が被災しました。災害の様子がテレビなどで報道され猛威のほどは文字通り息を呑むばかりでした。国の総力を挙げて一刻も早い救援と復興をはかる必要があります。

### \* 福島原発 炉心溶融事故発生！原発から自然エネルギーへの転換を

東北関東大震災は福島第一・第二原子力発電所を襲い、原子炉の停止機能は働きましたが、全ての電源がストップしたため、加熱した炉心を冷却する機能が働かず、燃料棒が水面から露出し、一部溶融し、炉心を保護する格納容器が水素爆発し破損し高いレベルの放射能が漏れだし半径30Kmの周辺住民に避難勧告が出される事態になりました。政府やマスコミは「想定外」の地震の結果と喧伝していますが、

いまはこれ以上被害が拡大しないことを望む他ありませんが、今後の被害は予断を許さない深刻な事態を予想されます。巨大地震はフィリピンやチリで発生しており三陸沖で起こる可能性は充分考えられたことです。「日本の原発は安心・安全だ」という安全神話を振りまいた電力会社や政府の責任は極めて大きいといわざるを得ません。今回の原発事故で周辺各地の土地、空気、海水に放射線が検出されていますが、この数値は、政府やNHKはじめマスコミは、胸部X線撮影やCT検査にくらべて少ないので、「ただちに、健康に影響がないので問題ない」と繰り返しています。これは、微量放射性物質による体内被曝後、1年～10年後、奇形や甲状腺癌を引き起こすことが知られています。世界で有数の地震国日本に多数の原発を密集させている現状は、日本のみならず地球を壊滅させ、国民の健康を損なう危険と隣り合わせと言っても過言ではありません。改めて原子力利用を含め日本のエネルギー政策を見直す必要があるでしょう。原発に頼らなくても自然エネルギー（太陽光、風力、地熱、波力などを利用した発電）と省エネ技術で日本の電力は充分まかなえることがわかっています。

### \* 宮崎も地震の巣を抱えています！

宮崎もプレートの重なる日向灘沖に面しています。過去に大地震が発生した記録もあり、決してよそ事ではありません。今回被災した東北地方は津波対策が日本でもっとも整備された地域でした。宮崎の場合、津波対策施設はほとんど出来ていません。無防備の状態被災すれば壊滅的被害を受けることは明瞭です。温暖化による海面上昇も予想されることから、なんらかの対策を講じる必要があります。防災対策は巨大大事業になり、短期間で整備できるものではありません。可能なかぎり早期に計画をたて、段階的に施設整備に取り組むことが肝要でしょう。

### \* 新燃岳の噴火！被害者のみなさんにお見舞いもうしあげます

新燃岳が200年ぶりの大噴火を起こしました。火山灰による被害を受けた皆様方にお見舞い申し上げます。これから雨の季節に向かうおり、土石流災害も心配されます。避難警報も必要ですが土石流止めの堤防づくりを真剣に考えてはどうでしょうか？ 雲仙・普賢岳の場合は火砕流でしたが死亡災害のあと急遽堤防が造られました。霧島でも活火山を抱えている以上火砕流の心配がないとはいえません。いずれにせよ、対策は早期に手をつけることが必要でしょう。

### ● 統一地方選挙始まる！健康で文化的に、かつ平和に暮らせる街を

宮崎県内でも、県議会議員選挙（4月1日公示、4月10日投票）、引き続いて、県内各市町村議員選挙（4月17日告示、4月24日投票）が始まっています。今回の統一地方選挙は、①住民にとって、ますます厳しさを増す経済情勢の中でいのちと暮らしを守る問題（例えば、国民健康保健料値上げ問題等）、②農業や地域産業を壊滅させかねないTPP参加問題、③今でも航空機騒音レベルが全国で1、2位と高い新富町新田原基地が米軍基地化されようとしている問題、などこれらの問題に加えて、さらに、④

串間原発問題では、串間市長と推進派は今回の福島原発事故により、4月の住民投票をあきらめました。が、もともと原発問題に各政党や候補者がどういう態度や政策をとってきたかも、よく調べ参考にして、投票にのぞみたいものです。

**\* 第69回 憲法と平和を考えるつどい —「グローバル経済の中の日米安保」—**

日本科学者会議宮崎支部と宮崎民主法律家協会は2月11日、第69回憲法と平和を考える集いを宮崎市総合体育館で開催しました。

現在と将来の日本・世界の経済発展を考えると、日米安保は大きな制約要因となっています。その現状を明らかにすることによって、軍需依存、多国籍企業中心の経済体制ではなく、まじめに働く人が正当な評価を受けるような経済社会を展望する必要があります。今回は国際経済学・国際金融論が専門の増田正人氏（法政大学社会学部教授）が「グローバル経済の中の日米安保—平和憲法を経済発展にどう生かすかのか—」と題して講演しました。集会には約80名が参加。質疑の時間が普段よりも長かったこともあり、参加者から多くの発言があり、活気のある集会になりました。（木下 統）

なお、この講演の要点を木下さんにまとめていただき、本号に添付しました。「目からうろこの落ちる」講演です。是非一読下さい。

**コーナー : 「あっちこっちで頑張ってるよ」・・・(4)**

本欄に掲載した「このはな」九条の会は10月23日に発足したあと精力的な活動を展開しています。その活動の一部を「このはな」九条の会ニュースの中から御紹介しましょう。

- ・ 1月23日(日) 都井の岬バスツアー  
南郷の人間魚雷「震洋特別攻撃隊」訓練跡を見学、若い命を失った無念さ、戦争の悲惨さを実感しました。
- ・ 12月12日(日) 霧島演習場での日米合同演習反対集会  
世界中に殴り込みで強襲する沖縄米軍海兵隊と都城駐屯地の陸上自衛隊との合同演習に反対する、えびの集会は300名以上が参加、「このはな」九条の会から11名が参加しました。
- ・ 3月12日(土) 学習企画「串間原発を考える」学習会  
私たちの宮崎を、そして自然を大切にすることと串間市の発展や市民の生活をどうすべきかを皆さんで学習し考えましょう。
- ・ 4月10日(日) 平和企画 赤江戦跡ツアー  
出発時間 10:00 集合場所 このはな生協クリニック駐車場  
今回は地元赤江の戦跡(格納シエルター・武器弾薬庫など・特攻慰霊碑)をめぐる、当時の人たちの想いなどを回想し、あらためて平和について皆さんで考えたいと思います。(是非多くの方々が参加されますよう御案内します)

**これからの予定**

■ 4月25日(月) 18:30～、宮崎中央法律事務所、みやざき九条の会ミニ講演会「今、なぜ坂の上の雲かPart 2(タイトル未定)」、講師：宮崎歴史教育協議会の野崎真公さん

■ 5月03日(火) 10:00～12:30、第70回憲法と平和を考えるつどい「民主党政権の新段階と憲法をめぐる情勢」渡辺治先生(一橋大学名誉教授、政治学、九条の会事務局) 場所：宮崎市民文化ホールイベントホール、主催：日本科学者会議宮崎支部、宮崎民主法律家協会、後援：憲法と平和を守る宮崎県連絡会。今回の講演会は、内容といい、講師といい、おおいに期待されます。みやざき九条の会も例会なみにバックアップすることにしました。みなさん、ふるって参加しましょう。

■ 5月03日(火)：上記講演終了後 みやざき九条の会主催のピースウォーク

(宮崎市役所前13:30集合 橘通山形屋前交差点まで)

